

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

NPO法人キッピーフレンズが行っている環境体験学習について

② 発表団体名

特定非営利活動法人 キッピーフレンズ

③ 発表概要

1. 環境体験学習とは



有馬富士公園



子供達を案内するスタッフ

兵庫県では8年前から県下の全小学校3年生を対象に総合学習の一環として環境学習・環境教育に力を入れ、年間5日間の「環境体験学習」を行っています。

この環境体験学習は「自然に対する畏敬の念、命の大切さ・命のつながり、美しさに感動する豊かな心」を育むことを基本理念とし、「五感を使って、自然の中で命のつながりを学ぼう、見て、触れて、感じて心をはぐくむ」をキーワードとし野外での体験学習に3日間をあてています。野外では森林、川、海での自然観察等、さらに、里山、田畑等での作業体験等の様々なプログラムが可能になっています。

なお、この学習の目的としてさらに先生以外の地域の人々や農業等を営んでいる方から直接指導を受けること、さらに学校を離れて地域社会を学び体験することが掲げられています。

2. NPOが受託する環境体験学習について



キツネの巣の模型

この学習を行っているフィールドは、私が住んでいる兵庫県三田市にある「兵庫県立有馬富士公園」の森です。この森には歩道、休憩舎等の施設が良く整備され、さらに、空中地中温度計、キツネの巣の模型、スカイデッキ等環境学習に役に立つ施設が設置されており安全に効果の高い環境学習が可能になっています。

この学習を受託しているのは、有馬富士公園内にある三田市有馬富士自然学習センターの委託管理業務を行っているNPO法人キッピーフレンズで会員約50名、その内環境学習チームに属している会員(スタッフ)は20数名です。私はこの団体で自然や森林に係わるイベントワーク等の責任者として活動していますが、この環境体験学習のために先生との事前打合せ・下見、企画書や子ども

達に持たせる探検シート等の作成、さらに学習当日のタイムキーパー、スタッフとして活動しています。

プログラムは公園の森を中心とした自然観察を必須として、自然材料を使ったクラフト作り、森のおそうじ(里山整備)、水辺の生き物調査等、1日の学習時間は2～3時間で、自然観察では観察ポイントを回る探検シートを子どもたちに持たせ、発見した事・驚いたこと等を簡単に記入してもらいます。観察後に室内でスタッフと一緒にふりかえり、取りまとめを行い、最後に班長、副班長に発見したことや驚いたこと等をマイクを使って皆の前で発表してもらいます。この発表は子ども達に緊張感を与え、先生から喜ばれています。また、子ども達が何に関心を持ったか、或いはスタッフの指導が適切であったかの判断をする良い機会になります。なお、普段はスタッフ1人で10名程度の子どものを引率して自然観察を行います。15人を超えると目が行き届かなくなる心配があります。ちなみに26年度は15校、27年度は10月現在9校を受託しました。

3. 都会育ちの子どもたち相手の苦労と工夫



教材になる看板

これらの学習を受けている学校は自然が少ない尼崎市や伊丹市等の阪神間が多く、子どもたちは森の中に入ると即、都会では出会うことが出来ない昆虫やケムシ、カエル、カメ等小動物の歓迎を受けて驚き悲鳴を上げます。昆虫や小動物を怖がる子どもに対して、如何にして興味を持たせ恐怖心を和らげるように導くことがスタッフの腕の見せ所でしょうか。始めは恐々と友だちの陰に隠れて昆虫を見ている子供が徐々に慣れ、緊張しながら虫を触ることが出来るようになった時の嬉しそうな笑い顔を見ると苦労の甲斐があったと感じています。

また、冬になると多くのカモが来る大きな池(福島大池)にある写真の看板が環境学習にとって良い教材になります。「かわいいカモさんにどうしてエサをあげてはいけないのかな」と投げかけます。3年生の子ども達には少し難しいようで中々返事、答えがありません。そこで「カモさんは人間が食べる美味しいお菓子やパンを食べると“メタボ”になって北国に飛んで帰れなくなるから」と説明します。3年生には「渡り鳥」がまだ理解出来ないようですが、「メタボ」と言う言葉でそれなりに理解してくれているようです。なお、カモのいない季節でもこの看板の前でカモの写真やツバメの写真を見せて「渡り鳥」を学んでもらうことが可能です。